

# 基本計画の前進に向け、現場の声を政策へ

## ～林活議連と共有した課題と決意～



前田会長と森林・林業基本計画の前進に向けて  
(右：前田哲也会長)

長崎県議会会議室において、森林・林業活性化促進議員連盟九州連絡会議の前田哲也会長（長崎県議）へ「森林・林業基本計画」の推進に係る要請行動を実施しました。

地本から加藤執行委員長、中川副執行委員長、古村書記長、藤崎執行委員が出席し、冒頭、加藤委員長より要請書を手交しました。

要請内容は、①「森林・林業基本計画」に掲げる施策の具体化や間伐や再造林をはじめとする森林整備の推進、地球温暖化防止森林吸収源対策に係る必要

予算の確保②森林環境譲与税について、森林環境譲与税の用途や譲与基準の見直し、税の主旨に基づく使途の徹底や全額基金積立などへの対策を図ること③市町村の林業部門担当職員の確保・育成、林業技術者等の活用に対する必要な支援と体制の整備、林業技術者の所得の向上、労働安全対策の強化④森林資源の循環利用確立のため、国の責務として苗木の安定供給体制の確立や鳥獣害対策等を講じること⑤地域材の安定供給体制の確立に向け、施業集約の促進と木材利用拡大等の施策の推進⑥

九州地本は11月18日に林活議連要請行動を実施。長崎県議会を訪問し、森林・林業基本計画の推進、九州の森林林業の振興に向け、要請行動を実施しました。

# 林野労組九州

発行所  
熊本市西区京町本丁2の7  
全国林野関連労働組合  
九州地方本部  
(電) 096-354-1150

発行者 松本慎剛  
発行日 10日  
定価 1部20円  
組合員の購読料は  
組合費の中に含む

## 緑を育て、守る、

## 林野労組

### 当面の行動

12月12日 役員推薦委員会  
12月16日 連合九プロ代表者会議  
12月19日 全国代表者会議  
12月25日 団体交渉  
12月26日 旗納め  
1月5日 旗開き  
1月9日 分会代表者会議  
1月23日 全国代表者会議  
1月26日～2月13日 中央・地本オルグ期間

## 全組織が結集し、森林の未来を拓く

### ～第19回九州地方森林労連定期大会～

11月7日、九州地方森林労連は第19回定期大会を開催しました。大会には地域森林労連・全山労・民林労組の代議員（鹿児島）が出席し、松永直人代議員（鹿児島）を議長に選出、2023・2024年度の総括と2025・2026年度の運動方針を確認しました。

冒頭、加藤吉征執行委員長から、「二昨年の大会以降、森林・林業・木材関連産業政策の推進をはじめ、労働条件改善や職業病対策の推進に向け、職場・地域が一丸となり展開してきた」と挨拶。特に、森林整備に関する



松永議長のもと経過報告

から、他産業並みの処遇改善に作業システム導入など、運動の成果は一定あったものの、依然として林業労働者の処遇改善等、課題が残っていることから、引き続き、各単組が連携した取組が必要であると述べました。

経過報告では、森林吸収量確保に伴う予算措置等について、林活議連と連携し要請行動等の取組を進めてきたが、目標とする森林整備量はこの数年間、達成されていないと報告されました。また、林業の現場で働く労働者賃金について、全産業と比較して年額90万円以上低いこと



全ての組織で前進を決意

については、本年6月に労働安全衛生規則が改正された。これらに基づき、契約時における安全指導を徹底させるなど、適切に対応させていきたい」と答弁がありました。また、「温暖化対策の側面で見れば、2050年カーボンニュートラルに向けた森林吸収源対策が求められている。森林労連として、本対策に伴う予算の確保や、政策実現に向け要請行動を行うなど、職場・地域段階でできる取組を積み重ねる必要がある」と回答がありました。

終盤、大会宣言では、「森林・林業基本計画」の着実な推進や「森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律」の成立に伴う市町村の林業部門担当者の

る森林づくりと、林業活性化に資することを目的として、森林・林業の振興のため懸命に取り組んでいることから、現場で働く方々と同じ熱量を持って、改善に向け取り組んでいく。また、今後も林業関係団体と連携し、九州全体で力を合わせ、要請が叶うよう努力して参りたい」と力強い回答がありました。

林野労組としても、引き続き協力関係を維持することを確認し、要請行動を終了しました。

## 匠の腕シベリヤ

### 「シベリアから渡来」

(撮影者 東 佑太：北薩分会)



#### 「匠の一言」

毎年1万羽を超えるツルがシベリアから渡来し、3月頃まで越冬します。



今年、私たちの職場で労働災害が続いた。どれだけ注意を払っても自然の中であつても、完

全にコントロールできない領域だが、その現実と向き合いながら、原因を探り、時に自分を責めるほど真剣に考え続けている安全担当者や安全管理者がいる。労働災害が起きるたび、現場は重い空気に包まれる。説明責任、再発防止、職員の不安。そのすべてを正面から受け止め、踏ん張っている姿がそこにある。しかし、その仕事は外から見えてくく、評価されることも、労いの声が届くことも少ない。それでも、あなたの方の働きが職場を支えています。見えなところで積み重ねた点検、指導、声かけ、その一つひとつが、次の事故を防ぐ力になっている。▼労組はあなたの方の奮闘を確かに見えています。その責務に耐えているあなたの方の張り、職場を守る大切な力なのです。

(松本)



# 労働学校を通じて仲間がくれた新しい視点

## 新採労働学校に参加して

11月21日（金）から23日（日）までの3日間、東京で新採労働学校が開かれました。当日、私は熊本空港から羽田空港へ向かったのですが、飛行機が30分も遅延し幸先の悪いスタートとなりました。羽田空港で九州の仲間と合流し、その後、参議院会館で全国の仲間と合流。九州からは約20名が参加していましたが、この人数はどの地本よりも多い参加人数でした。

人生で初めて国会議事堂に入ったのですが、左右対称となっている構造や、西洋の建築技術と日本の装飾技術が相まった和洋折衷な意匠に目を奪われるばかりでした。歴史と政治の中心地に足を踏み入れたことで、「自分たちの働きが国の仕組みの一部を支えている」という実感がわき、身の引き締まる思いがしました。建物に刻まれた年輪のような歴史が、これから自分が積み重ねていく経験とどこか重なり、自然と背筋が伸びる瞬間でした。

その後、全員で林野会館に向かい交流会が設けられました。この場では普段聞くことのできない様々な地方で行われている国有林野事業を知る機会となりました。他地方との交流は4月に行われた新規採用研修以来のことでしたが、半年の経験を経た今回は、相手の話が自分の業務と重なり合う部分が多く、より具体的に理解することができました。「地域が違えば課題も違う」といった当たり前のことが、仲間の言葉を通してぐっとリアルに迫ってきました。同時に、どの地方にもそれぞれの課題や努力があり、同じ方向に向かって歩いているような一体感も感じました。

で大きな差があることを思い知りました。その語り口には、厳しい環境でも粘り強く仕事に向き合う姿勢が感じられ、同じ仲間として尊敬の念を抱きました。自然と向き合う仕事の厳しさを改めて実感し、自分も現場と向き合う者として、もっと成長しなければならぬと思わされました。

二日目にあった分散会では、座長を含む15名ほどのグループで、労働環境、生活環境における悩みを話し合いましたが、どの地方からも宿舎関係の悩みが多くあがっており、似たような悩みを共有できたことで、不思議と心が軽くなりました。「悩みを言葉にし、誰かが耳を傾けてくれる」この経験は、思っていた以上に自分を支えてくれるものでした。

今回の行程で感じたものは、組合に入っていたからこそ味わえたものであり、引率の方や中央本部の方にはこのような集まりを開いてもらい大変感謝しております。また、今回の労働学校で様々な視点から、物事の考え方を聞くことができたので、



九州団結の誓い

今後の仕事に役立てていきたいです。何より、この3日間で得た「仲間がいるという確かな支え」を胸に、これからの業務にも前向きに取り組んでいきたいと感じました。今後は、自分が受けた刺激を周囲にも還元し、組織全体が更に良い方向へ進む一助になればと思っています。（局分会 田代通信員）

# あの人と人

## 「前へ漕ぎだす力、海でも職場でも」

中村 侑暉さん（宮崎北部分会）

今回宮崎北部分会からは、中村侑暉さんを紹介いたします。中村さんは愛知県春日井市出身の23歳で、大学卒業後一年間、鹿児島地域振興局の臨時任用職員として勤務した後、令和7年度に宮崎北部署に採用されました。森林育成担当として頼れる上司に教わりながら、自身の担当に限らず他の業務にも積極的に取り組んでおり、入庁してすぐに外部からの電話に的確に対応したり、他業務の現場応援に積極的に参加したりと様々な業務に柔軟に対応する姿は、とても一年目とは思えず、時折見せる中村さんの太陽のような笑顔は、整忙期などで緊張した署内の雰囲気をも明るく一変させてくれます。

また、大学生時代の探検サークルで鍛えた体で収穫調査の応援やソフトボール大会への参加などアクティブに活動しており、体力面においても頼れる存在です。さらに、学生時代には趣味として図書館へ通うなど、勉強家の一面も兼ね備えています。そんな中村さんの休日の過ごし方についてですが、型にとられないタイプのようで、読書好きでゆつくりとした休日をお過ごしなのかと思いきや、一人キャンプに挑戦したり、大阪万博に乗り込んだりとその行動力に驚かされます。御多分に漏れずお酒好きで、飲み会に誘われたら必ずと



錦江湾でシーカヤック

宮崎北部での暮らしを満喫されており、仕事も趣味も幅広くそれでいて隙のない中村さん。今後の活躍に目が離せません。（宮崎北部分会 田中通信員）

# 職場段階の課題を解決するため意思統一

## ～長崎、沖縄分会定期大会～



新執行体制で分会を支える：長崎分会

10月2日、長崎森林管理署会議室において、第21回分会定期大会を開催しました。冒頭、森浩分会執行委員長から「日頃より各種取組について感謝を申し上げる。物価高の影響により生活が苦しい現在、総裁を変えただけでこの生活が回復するとは思えない。我々の声

を国会に届けてくれる議員を応援し、今こそ政治を変える必要がある。そのためには当分会は組織強化を図り、組合員の意見や思いを要求まで繋げていくことが今後を変えるために重要である」と挨拶がありました。来賓挨拶では、古村地本書記長・連合諫早の島原地域協議会事務局長より激励の言葉があつた後、2024年度の経過と総括、2025年度運動方針（案）が執行部より提案され、質疑・討論を踏まえ、全ての提案が承認となり、向こう1年間の方針が意思統一されました。また、役員改選では執行体制が一新し、谷口正美新分会執行委員長の団結ガンバローで大会を終りました。

大会終了後は場所を移して懇親会が行われ、たくさん美味しい料理に舌鼓を打ちながら議論を交わして、当分会の一層の団結力強化に繋がりました。本大会で決まった方針を基に組合員一致団結してこれからの活動を進めていきたいです。



運動方針を確認：沖縄分会

（沖縄分会：小崎通信員）9月11日、沖縄森林管理署会議室において、第21回林野労組沖縄分会定期大会を開催しました。冒頭、坂本法博分会執行委員長より、7月20日に投票された参院選や那覇市議選の推薦者の結果、分会機関紙の最優秀賞の受賞等に触れ、「本大会では活発な意見をお願いしたい」と

挨拶がありました。また、来賓として九州地本の古村書記長より、職場課題や人事院勧告に触れ、激励の挨拶をいただきました。議事では、執行部より2025年度運動方針案等の提案があり、質疑討論の中で当分会が抱える様々な諸問題について活発な意見が出され、意思統一を図る場となり、最後には曲瀬川淳一新分会執行委員長による団結ガンバローで閉会しました。



ジェンダー平等を考える学びの場



林野労組中央集会での分散会

（局分会 伊藤通信員）

ジェンダー平等について語り合う

興味深く参加することができました。25日の林野労組中央集会では、分散会を行い、女性特有の悩みだけでなく、男性が普段女性と関わるうえで感じている悩みについても、男女共に話し合い、意見交換を行うことができました。

今回の集会は女性だけでなく男性の方も多く参加されており、お互いの立場でそれぞれが感じている悩み等を話せる機会として、すこゝありがたい場だなと思いました。